

## 第1章 札幌市温暖化対策推進ビジョン策定にあたって

### ビジョン策定の背景と目的

#### ビジョン策定のねらい

市民・事業者・札幌市の全てがビジョンにおける主体(=読み手)であり、この全ての主体が共に取り組んでいかなくてはならないことを示す。  
次世代へ豊かな環境を残すためには、まさに“今”対策に取り組まなくてはならないことを示す。  
全ての主体が一体となって対策を推進するため、現在考えうる対策のシナリオ(=道筋)を示し、各主体の行動(対策)とその結果(CO<sub>2</sub>削減)を示す。

### 札幌市における地球温暖化対策の取組状況と温室効果ガスの排出状況

これまで札幌市として様々な対策を行ってきたが、温室効果ガス排出量は増加(直近のデータである2007年で、1990年比約1.29倍)している。  
しかし、科学的知見や国内外の情勢によって、さらに取組を推進していかなくてはならないことを示す。

## 第2章 地球温暖化対策に向けた目標と将来の姿

### 温室効果ガス排出量の削減目標設定にかかる前提条件と削減目標

地球温暖化を防ぐには、温室効果ガスの人為的排出量と自然吸収量のバランスを取る必要があるが、できるだけ地球温暖化の影響を小さく抑えるためには、2050年までに先進国で80~95%(1990年比)の排出量を削減しなくてはならないこと、またそれに向けた国内外における対策の動向を示す。

#### 札幌市の削減目標

前提条件を鑑み、札幌市における温室効果ガス排出量を以下のとおり削減することを目指す。

【長期目標】2050年に80%削減する(1990年比)

【中期目標】2020年に25%削減する(1990年比)

### 目指すべき将来の札幌市の姿

長期目標を達成し、低炭素社会を実現した目指すべき将来の札幌市の姿を示す。

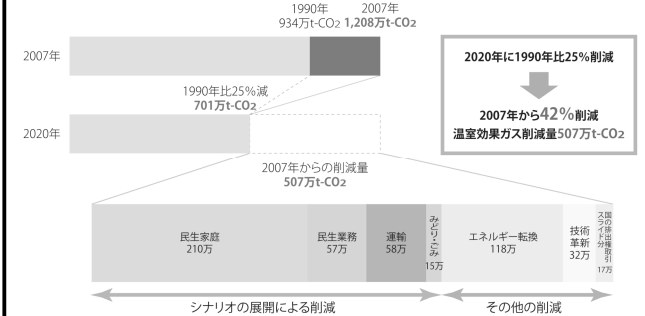
## 第3章 ビジョンを実現するための温室効果ガス削減シナリオ

### シナリオを描くための前提条件

札幌市の特徴として民生家庭・業務部門、運輸部門でCO<sub>2</sub>排出量の約9割を占めることから、特に家庭や事業所における対策が重要であることを示す。

### 中期目標達成のためのシナリオ(=道筋)

温室効果ガス排出量を削減するために現在考えうるシナリオの展開として、市民・事業者・札幌市の全ての主体が行うべき対策を10のアクション(=行動)として示す。



## 第4章 10のアクションによる中期目標達成のためのシナリオ展開

国のロードマップ試案等をベースに、北国基準の省エネ住宅の普及など札幌市として重点的に進めるべき取組を分類し、各主体がどのような行動を取れば温室効果ガス排出量の削減に結びつかを示す。

### 10のアクション

- |                                    |                                |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 北国基準の省エネルギー住宅の普及に向けた展開          | 【削減量】 約29万 t -CO <sub>2</sub>  |
| 2. 高効率給湯・暖房機器の普及に向けた展開             | 【削減量】 約108万 t -CO <sub>2</sub> |
| 3. 次世代自動車や公共交通機関等の利用拡大に向けた展開       | 【削減量】 約58万 t -CO <sub>2</sub>  |
| 4. エコライフの定着・拡大に向けた展開               | 【削減量】 約58万 t -CO <sub>2</sub>  |
| 5. 事業活動によるCO <sub>2</sub> 削減に向けた展開 | 【削減量】 約45万 t -CO <sub>2</sub>  |
| 6. 太陽光発電設備の導入拡大に向けた展開              | 【削減量】 約9万 t -CO <sub>2</sub>   |
| 7. 木質バイオ燃料の導入・利用拡大に向けた展開           | 【削減量】 約13万 t -CO <sub>2</sub>  |
| 8. 再生可能エネルギー等の利用拡大に向けた展開           | 【削減量】 約5万 t -CO <sub>2</sub>   |
| 9. ごみ減量・リサイクルの定着・拡大に向けた展開          | 【削減量】 約6万 t -CO <sub>2</sub>   |
| 10. 地域のみどりの育成に向けた展開                | 【削減量】 約9万 t -CO <sub>2</sub>   |

各アクションで、「2020年に目指すべき姿」、「各主体の“行動”」、「札幌市の率先取組」を示す。

## 第5章 シナリオを展開するにあたって

### 環境と経済の両立

#### 環境産業振興と対策を行うことのメリット

省エネ住宅や高効率給湯・暖房の普及による消費拡大やIT産業の振興、そして木質バイオ燃料や道産食材など地域資源を活かした地産地消を進めることにより、「札幌らしい」環境産業の振興に繋がることを示す。  
省エネ・新エネ機器の導入にはコストがかかるが、長期的に見れば光熱費等で回収できるが、むしろ得をすることを示す。

### 環境教育の充実

次世代を担う子供たちをはじめとした環境教育の推進を行うことで、エネルギー問題に対する関心の向上や対策の推進に繋がることを示す。

### 広域的な連携の視点

北海道の中心都市としての連携の視点。

### シナリオの見直しと発展に向けて

国の計画策定後に「実行計画」を策定する。